

# 平成28年度GNグループB4新人研修課題 報告書

2016年04月21日  
乃村研究室 坪川 友輝

## 1 概要

本資料は平成28年度GNグループB4新人研修課題の報告書である。本資料では、課題内容、理解できなかった部分、作成できなかった機能、および自主的に作成した機能について述べる。

## 2 課題内容

課題内容は、RubyによるSlackBotプログラムの作成である。具体的には以下の2つを行う。

- (1) 任意の文字列を発言するプログラムの作成
- (2) SlackBot プログラムへの機能の追加

本課題におけるRubyのバージョンは、2.1.5である。

## 3 理解できなかった部分

- (1) Net::HTTP クラスの仕組み
- (2) sinatra サーバへPOSTしたときのパラメータについて  
スクリプトからsinatraにJSONデータをPOSTすると、sinatraはparamsとしてデータを受け取る。このとき、データに入れ子構造や配列が存在するとそれらはparamsで正しく受け取れていなかった。具体的には以下のようなデータをPOSTした場合。

```
{"aaa": {"bbb": "111"}, "ccc": ["222", "333"]}
```

params は以下のようにになっていた。

```
{"aaa"=>"{\"bbb\"=>\"111\"}", "ccc"=>"333"}
```

つまり，入れ子構造は文字列として，配列は最後の要素しか渡されていなかった．しかし，GitHub の Webhooks から JSON データを POST する場合は，sinatra は params としてデータを受け取らない．このため，request.body からデータを取得する必要がある．また，入れ子構造や配列も正しく取得できた．なぜ，スクリプトから POST する場合と，GitHub から POST する場合とで，パラメータの渡され方に違いがあるのか理解できなかった．

## 4 作成できなかった機能

- (1) GitHub の Webhooks を用いた push 以外のイベントへの対応

## 5 自主的に作成した機能

以下の機能を自主的に作成した．

- (1) “weather” という発言に反応し，岡山市の天気情報を発言
- (2) GitHub へ push を行った時，push された内容を発言